



宮津市で選定を利用した取組みを視察

2月24日、重要文化的景観の活用事例を学ぶため、宮津市を訪問しました。宮津は、重要文化的景観に選定されてからまだ日が浅いのですが、元々、日本三景の名勝地、自然も建物もたくさん見どころがあり、それらを今後、維持保全していくためにも、重要文化的景観選定の制度を利用した補助金等の積極的活用を進めていく、とのことでした。



宮津市府中の舟屋(伊根が有名だが宮津にもある)



石張りで整備された門前町街路



説明や質疑応答の様子

宮津市を訪ねて以外だったので、宮津市は現在人口約二万人で高島市より小さく、重要文化的景観を担当する市の教育委員会の文化財担当の方が観光や建設の部署と連携を取りつつ、一人の方が担当されているとのこと。

選定を受けた年から、重要な構成要素となる建築物等の改修事業(国と所有者半々で事業実施・個人負担あり)を行い、次年度も同様の規模で事業を進める予定であるとのことでした。観光と生業が直結しているような地域の特長もあるかとは思われますが、選定をうまく利用されていると感じました。左上の写真の舟屋の一つについても、所有者は現在宮津在住の方ではないのですが、次年度その事業で改修を進めるとのことでした。



天橋立 延々と続く砂浜と松林



船着場すぐそばの木造三階建の旅館の説明を受ける

舟からの景色を楽しむイベント

「きやんせ海津・早春編」実施

3月8日(日)に「きやんせ海津」イベントを実施しました。海津の散策、少し雪が残る山と海津の石積み湖の眺める湖上遊覧、そして、『琵琶湖の幸』満載の昼食。今回で3回目ですが、着地型観光のメニューとして企画し、今後も、もう少し続けて、最終的には地元の方がそれぞれに行える定番の企画として実施できるようになれば、と考えています。参加者の皆さんにはそれぞれに、早春のマキノの良さを感じていただけたと確信しています。

今回の企画は、地元民宿と観光船を持っておられる漁師さんと、ご協力いただきました。

着地型観光とは観光客の受入れ先が地元ならではのプログラムを企画し参加者が現地集合・解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的の地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて地域の振興につながる」と期待されている。



風(な)いだ湖を進む遊覧船



湖上遊覧船から海津大崎を望む



「イケ」の説明の様子



酒蔵の見学



海津の石積みの説明の様子



楽しい昼食・湖魚満載の料理に思わず写真を

参加からの
コ・メ・ン・ト
海津の町歩きや船からの石積み湖岸を見るクルーズ、吉田酒造の酒蔵見学、湖の幸いっぱい豪華昼食！とても充実した1日でした。鮎子まぶし、いさざ鍋（じゅんじゅん）鮎ずし、うぐい煮付、どんがね、みんな最高でしたね。「ツシ」と呼ばれる湖岸に続く小道や涌水池など、ひなびた港町の風情がとてもいい感じでした。
(大阪市在住・男性)



フナのこまぶし・小鮎のしょうゆ炊き・イサザのじゅんじゅん・あら汁別に大皿で・フナのどんがね・ウグイの煮付け・鮎ずし・小鮎の天ぷら

海津の街並み探訪ツアー「きゃんせ海津」へ参加しました。往古、琵琶湖は日本海の物資を京・大坂へ運ぶ水上輸送として使われており、海津はその拠点として繁栄しました。その名残として残る琵琶湖の石積み船による湖上遊覧をした後街を歩き、吉田酒造の蔵見学を行いました。吉田さんのユーモア溢れる説明を聞いた後、琵琶湖の幸を堪能しました。何ともゆつたりした休日でした。
(彦根市在住・男性)

協議会でいっしょに活動してみませんか

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会委員は、3月末で改選となります。委員は2年任期です。興味のある方は、現在公募委員を募集していますので、4月末までに次ページ左下の事務局までご連絡お願い致します。

区推薦で当協議会に参加されている皆様（区長さん等）は、当協議会の役員として、地域と当協議会を繋ぐ重要な役割を担っていただいております。ただ、協議会設立から数年が経ち、協議会の活動内容や目指すところが地域の皆さんに伝わりにくくなっていることを我々も反省したいと思っております。

私達の住むこの地域は、周囲を見回していただいてもわかる通り高齢化が進んでいます。今年生まれ赤ちゃんが入る20年後、どのような人口構成になっているでしょうか。それを思うと、「今までのままでいいじゃないか」とは、とても言えない現実が想像できます。ここで、何かを始めて行かなければならないのではないのでしょうか。

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会は、豊かな自然と歴史と文化のあるこの地域で、誇りを持ち活気をうむ活動を、微力ではありますが、地域に根づいて続けていきたいと考えています。

これからも地域の皆さんには、ご協力をいただくことになると思いますが、今後共どうぞよろしくお願い致します。

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会 S26 活動報告

- 平成25年 6月 下旬 「びわこ一斉清掃」に合わせた湖岸一帯の清掃活動
- 平成26年11月 3日(月) 「きゃんせ海津～石積みの町を歩く～」の開催
- 平成25年12月 初旬 「県下一斉清掃」に合わせた湖岸一帯の清掃活動
- 平成27年 2月24日(土) **重要文化的景観選定地域視察研修(宮津の文化的景観・京都府)フォトアルバム記事参照**
- 平成27年 3月 8日(日) **「きゃんせ海津～早春篇～」の開催 フォトアルバム記事参照**
- 平成27年 3月 下旬 重要文化的景観区域選定の日(3/28)に合わせた湖岸一帯の清掃活動

石積みのまち/国指定・重要文化的景観 海津・西浜・知内の水辺景観のfacebook <https://www.facebook.com/kaizu.ishizumi> (石積みのまちでクリック)



海津西浜知内の重要文化的景観とは

海津・西浜・知内地域は、平成20年、国の「重要文化的景観」の選定を受けました。

◇室町から江戸期にかけての海運商業都市としての面影

◇1・2キロに及ぶ湖岸の石積みや往時をほうふつとさせる町屋、

◇昭和前期の繁栄の面影である、船着場の棧橋の跡、三羊館の写真のコレクション

◇「イケ」や「ハシイタ」に代表される、市井の人と水との関わりが形となって今も残っている（守り続けている）その姿

◇知内川のヤナや琵琶湖のエリ、そしてその水産物の加工業の佃煮などが、現に今も生業としてある



湖岸の「ハシイタ」



湖への路地「ツジ」



知内川の「ヤナ」

◇集落に近接した内湖が、埋め立てられず、自然のまま残っている

◇琵琶湖という日本一の湖にある淡水湖の砂浜（砂浜のある湖自体、日本では琵琶湖特有のこと）

◇内湖や琵琶湖岸に自然に生きる植物群

◇内湖や琵琶湖に生きる、琵琶湖固有種も多い魚類

それら全てが、海津西浜知内という小さい地域にまとまって残っている、また見ることが出来る、それは全国的にみても貴重だということが選定の理由だそうです。

そしてそれらは、現在の環境に、色々な意味で負荷をかけている生活とは異なった、昔の自然と共存した生活の全体像をイメージさせることも出来るそうです。（当時としてはそれは仕方なくかもしれませんが）

この地域が、歴史と文化に育まれ、豊かで住みよい町で今後もあり続けるために、全国的に見ても貴重なこの地域を、もう一度地域の皆さんと共に見なおしてみよう。そして、そんな素晴らしい場所であることを、多くの方に知っていただくよう。そういう趣旨で

大事に！きれいに！賑やかに！

をキャッチフレーズに、協議会は活動しています。

今後とも、その趣旨に賛同いただき、活発な意見や協力などを協議会の方へいただければ幸いです。また、最後になりましたが、継続的な美化活動事業にご協力ありがとうございます。

編集後記

年に一度の「いしづみ便り」を、今年度の活動紹介をかねてフォトアルバム形式で作成し、発行させていただきました。

昨年度からスタートしたフェイスブックページには多くの情報が寄せられています。こちらからも、より一層地域の情報を発信していこうと考えております。今後とも、協議会活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

（広報担当 本田明）

◎事務局
海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会

滋賀県高島市マキノ町西浜1209-8

マキノまちづくりネットワークセンター内

TEL 0740-28-8002

FAX 0740-20-11024

MAIL machinet@ex.bw.dream.jp



海津湖岸の石積み